

展示室1c 篠田桃紅と抽象の世界

1月13日(水)–3月28日(日)

2021年3月に108歳を迎える篠田桃紅は、中国・大連生まれ、父親の手ほどきのもと初めて墨と筆に触れたのは5歳の頃。自らの新しいかたちを創りだすことを希求し、1956年に抽象表現主義が全盛のニューヨークに渡って、墨による抽象を確立しました。今特集では、墨のもつ可能性、そこに表れる時間や空間と向きあい続けた桃紅のかたちをご紹介します。

作家名	生年-没年		作品名	制作年	技法、素材
ピエール・スーラージュ	1919-		リトグラフ31	1974	リトグラフ、紙
しのだ とうこう 篠田 桃紅	1913-		火	1981	墨、銀泥、銀地
			遠つ代	1964頃	墨、銀泥、画布
			日かげ日なたA	1982	墨、銀泥、銀地
			祭り(後)	1986	墨、朱、銀地
			惜墨3	1991	墨、和紙
			惜墨2	1991	墨、和紙
			惜墨4	1991	墨、和紙
			INISHIE(いにしえ)	1986	リトグラフ、紙
			QUIETUDE(静寂)	1990	リトグラフ、紙
			人よ(Ⅱ)	1988	墨、朱、銀地
			昇華	1993	墨、銀泥、緑青、麻紙に金箔、絹
			相	1994	墨、朱、銀地、紙
			PHASE(相)	1990	リトグラフ、紙
			To the future(明日へ)	1986	リトグラフ、紙